

## 「イオン 心をつなぐプロジェクト」第1期の活動を踏まえて 被災地に貢献する“交流と創造”をキーコンセプトとする第2期の活動を開始しました。

2012年3月、イオンは、長期にわたる被災地の復興をオールイオンで取り組むことを決意し、3つの事業を柱に「イオン 心をつなぐプロジェクト」を発足。2012年度から2021年度までの10年間、この活動を継続することを決定しました。活動を進めるうえで中長期の方向性が欠かせないことから、活動全体を3カ年毎に区切り、2021年度までの「中長期計画」を策定しました。

## 「イオン 心をつなぐプロジェクト」

### ●基本コンセプト

イオンの理念である「平和」「人間」「地域」に基づき、全世界のイオンピープルが、イオンの経営活動で得た多様な資源を活かして、創造性を発揮し、創発的取り組みとして、東日本大震災の復興に貢献する。イオンピープルにとって、この体験はイオンの理念を体現し体感する機会であるとともに、人間としての成長の機会となる。翻ってそれは、商人(ビジネスパーソン)としての成長でもある。

### ●復興支援の目的

人と人とのつながりを持ち、人と自然、自然と産業が共存する持続可能な地域共同体の復興をサポートする。

### ●プロジェクトのビジョン

私たちはイオンの理念「平和」「人間」「地域」と「復興支援の目的」を重ね合わせて、その実現に向けて「やりたいこと」「できること」を主体的に考え、想像し、行動し、被災地の再生復興に立ち上がる地域の人々に寄り添うように貢献し続ける。



## 「イオン 東北復興ふるさと森づくり」

### 第1期「初期的構築期」の取り組み概要

岩手・宮城・福島の沿岸部に植樹を行ってきました。3年の時をかけて、「木を植えてから森づくりが始まる」ということを身をもって体感しました。植樹活動を通じて地域の皆さまとの交流を深め、森を育みながら人と人がつながり、自然豊かなふるさとが復興されることを目指しています。



陸前赤崎駅植樹

2015年2月末現在の支援実績

被災地での植樹本数

106,997本

### 第2期「自立拡大期」に向けた取り組み

東北各地で海岸林の再生を願い活動する地域の皆さまと、全国各地・各社が結びつき、植樹活動を通じて地域間交流を推進していきます。また、樹木に限らず、果樹や花木を植樹し、産業や観光の振興を支援していきます。さらに、地域の皆さまの心の拠り所となっている鎮守の森の再生や、流出した駅前広場への植樹を続けていきます。



2021年度までの支援目標

300,000本

## 「ボランティア派遣」

### 第1期「初期的構築期」の取り組み概要

2012年度に岩手県陸前高田市、2013年度から福島県南相馬市で活動し、現在も継続しています。多くのイオンピープルが被災地を訪れ、現場を肌身で感じ汗を流し活動することで、少しでも地域の皆さまの想いに寄り添うことができるよう努めました。



芝生の再生

2015年2月末現在の支援実績

被災地ボランティアに参加した従業員数

延べ1,987名

### 第2期「自立拡大期」に向けた取り組み

原発事故による避難生活から、地域再生に向かう福島県浜通りでの活動を通じ、社会の問題を現場で実践し考えることの重要性を共有し、イオンピープルがそれぞれの社会生活や仕事にこの体験を活かしていきます。また、これまでの汗を流すボランティア活動から「交流」に重点を置いた活動として取り組んでいきます。こうした交流を通じて、地域の皆さまとイオンが創造的につながり刺激しあえる交流プログラムを推進していきます。



2021年度までの支援目標

300,000名

## 「各地・各社からの支援活動」

### 第1期「初期的構築期」の取り組み概要

プロジェクトの推進に向けてグループ各社に「推進責任者」を置き、被災地での現地研修を継続して実施。グループ各社・労使が各社独自の活動を展開してきました。また、「東北復興マルシェ」の実施やドキュメンタリー映画「うたごころ」の全国各地での上映などを通じ、プロジェクトのスタートを社内外に発信しました。



炊き出し活動(マックスバリュ東北)

2015年2月末現在の支援実績

各地・各社でのボランティアに参加した従業員数

延べ138,053名

※被災地ボランティアに参加した従業員数を含む

### Voice

南相馬市に皆さまの笑顔をお届けください。

「イオン 心をつなぐプロジェクト」の皆さまには、継続的に全国から足を運んで南相馬市民の生活再建のために汗を流していただき、大変感謝しています。震災から4年が経ち、病院が復活したり食堂ができたりと復興に向けて少しずつ動き出していますが、まだまだ道半ばです。復興に向けて市民の気持ちを前に進めるためにも、どうぞ、皆さまの笑顔を届けに南相馬市においでください。心よりお待ちしております。



南相馬市  
社会福祉協議会  
災害復興復興  
ボランティアセンター  
センター長  
鈴木 敦子様

長期にわたって復興支援活動を行うためには、地域の皆さまの想いに寄り添い、地域のニーズに合った活動である必要があります。第1期「初期的構築期」の3年間のグループ各社の復興支援活動のなかから、地域とのつながりを模索し実践した好事例が生まれました。このことを踏まえ、第2期のキーコンセプトを「交流と創造」としました。イオンは、被災地を訪れ皆さまとの交流を通じて想いを寄り添い、関わり方や支援の在り方を創造していくことで復興を支え続けていきます。

## 東北の復興・発展に向けて、安心してらせる街づくり、 農水畜産業の活性化を応援する取り組みを継続しています。

イオンは、東日本大震災の発生以降、人々の日々の暮らしを支え、また地域の人々の雇用など経済基盤にもなり得る被災地の店舗の再開に全力を尽くしてきました。

しかしながら、甚大な被害を受けた市町村では、店舗単体ではなく、周囲のインフラ再整備も含めた大規模な街の復興が求められています。そこでイオンは、東北エリアへの出店を通じた雇用の創出、便利で豊かな生活を支える商品・サービスの提供に努めています。

### 出店を通じて地域経済の活性化に貢献

2013年3月、イオンは復興に取り組む岩手県釜石市と「大規模商業施設の立地及び地域貢献に関する協定」を締結。同市とともに防災および避難体制に配慮した街づくりを目指し、2014年3月に「イオンタウン釜石」をオープンしました。安心して豊かにらせる街づくりの実現に向けて、2014年度は東北6県において15店舗を出店しました。また、行政や地域団体の方々と協同して、東北の地域の味・文化を伝える企画を開催しています。



「イオンタウン釜石」  
2014年3月オープン

会津若松市と  
開催した「会津フェスタ」



### 商品を通じた支援を積極的に展開

イオンは、東北の農水畜産業の復興・活性化を継続的に応援するため、東北産原料を使用した商品に「届け東北のまごころ」のロゴマークを付け、日本全国のイオン店舗で販売しています。また、岩手県の三陸鉄道、久慈市漁業協同組合と協力し、国内初の「ファストフィッシュ」※商品を開発。2012年から販売を開始し、順次商品を拡大しています。

※水産物を手軽においしく食べられるように調理の手間がかからないよう加工された食品のこと。



記念  
セレモニー



「骨取りさんま ガーリック風味」



商品カタログ



「南リアス線WAON号」

### 全国のお客さまとともに支援を推進

お客さまと被災された方々をつなぐ架け橋となるべく、イオン独自のインフラや取り組みを活用した支援をお客さまとともに継続して取り組んでいます。2015年度は、岩手・宮城・福島の子ども育英基金に、総額約9,937万円を寄付しました。

#### イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

毎月11日の「イオン・デー」に実施している「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」。2012年からは、3月のキャンペーンを3日間に拡大し、専用ボックスに投函されたレシートの1%を、東北の子どもたちを応援する取り組みに寄付しています。



#### 東北復興支援WAON

ご利用金額の一部をイオンが寄付し、被災地の活動に役立てていただく「東北復興支援WAON」を発行しています。



寄付先:「いわての  
学び希望基金」



寄付先:「東日本大震災  
ふくしまこども寄附金」



寄付先:「東日本大震災  
みやぎこども育英募金」